日本大学芸術学部　「芸術学部紀要」第49号抜刷　平成21年3月

版画家イザーク・ブリオについて

……一六一〇―二〇年代のパリの視覚文化の一面

木村　三郎

版画家イザーク・ブリオについて
……一六一〇―二〇年代のパリの視覚文化の一面

木村三郎

要旨

Saburo KIMURA,《A propos du graveur Isaak Briot》(*Research in Arts, College of Art, Nihon University*, 2009, no.49). L'auteur a analysé la vie et les plusieurs aspects essentiels des gravures d'Isaak Briot (1585-1670), en se fondant sur les études de LE BRUN (1854), ROBERT-DUMUESNIL (1868) et aussi WEIGERT (1951).

Key Word : Isaak Briot, le chevalier Marin, le pape Urbain VIII, Auguste, Tibère, Caligura, le Sacre Zodiaque, Etienne Binet, Ovide, les Metamorphoses

I　はじめに

日本大学には、オウィディウスの『変身物語』で、十六世紀と十七世紀に刊行された稀覯書二点が収蔵されていて、現在その主要部分は、デジタル・アーカイブによって公開されている(http://www.ovidmeta.jp)。本論考は、その図書のひとつである一六五一年に刊行された『変身物語』に挿絵を描いた、版画家イザーク・ブリオについての研究である。

II　版画家イザーク・ブリオについて

①先行研究

註に記した研究史を眺めて見ると、主要な研究としては、一八五四年に書かれたル・ブラン『版画家作品名辞典（版画愛好家手引き）』(LE BRUN, *Manuel*) の中の項目が先ず挙げられる。一二一点の作品を、主題別に分類し、参考文献を示しながら記述している。

一八六八年には、ロベール=デュメニル(ROBERT-DUMESNIL)が、

版画家目録『フランス人創作版画目録』の第十巻に、作品点数を一九四点に増加させ、個々の分析を詳しくした長い項目を残している。なお、一八七一年に増補の巻が出され、三点が追加されている。

目録ではないが、一八七二年には、ジャルが『歴史批評事典』(JAL)の中で、短いが要を得た、現在でも引用される報告を掲載している。

その後は、版画関連の事典項目にはその都度若干の記録が現れる。しかし、十九世紀の成果を超えるものは、戦後の一九五一年まで待たなければならない。パリ国立図書館(当時)版画室の司書であった、ヴェジェールが執筆した目録である(WEIGERT,1951)。これは、叢書『フランス・コレクション目録』(*IFF*)の中の一冊である、「十七世紀版画」の第二巻で、ヴェジェールは、作品の発掘努力を一層深め、二三七点の作品を記述している。

しかしながら、未だ、図版を掲載した目録は刊行されていない。その意味で、先行研究という立場でいえば、鯨井秀伸(2006)氏が執筆した報告が、ブリオの作品も含む一三七点の図版入りの刊行物としては、出色の資料となっている。ちなみに、写真撮影は、現在、京都国立博物館の比嘉飛鳥氏によるものである。

②その生涯

先ず、この版画家の生涯を、今、指摘したジャル(JAL,I)の関連項目と、フランス国立図書館版画室の、プレオ(PREAUD, *Dictionnaire*, p. 70、以下単に、PREAUDと表記する)の研究から紹介してみたい。

I・ブリオの父親は、ディディエとされ、彼はサン=ジェルマン大通りに、一六三五年、十一月二四日に埋葬されたことが知られている。また、その家族には、イザークの他、兄弟に、ニコラ(硬貨鋳造の世界で著名)、フランソワ(彫金師)、ギヨーム(不明)がいたと推定されている。イザークの娘マリー Marie(後に版画家)を含め、計五名の名前が挙げられる。ともに新教徒であった(JAL,I, p. 283)。ここで、版画家と編集者も兼ね、販売も行った。イザークIsaacに絞って、やや詳しく紹介してみたい。

一五八五年七月、誕生。生地は、フランスのロレーヌのバシニー地方のダンブランDamblain。

一六〇八年、ジャンヌ・ランブールと結婚。やがて、版画家となる娘マリーが生まれた(以上、PREAUD)。

一六一九年、図6aに示した、オウィディウス『変身物語』の扉絵と、その中の三六点の挿図を描いている。出版業者は、パリにあるランジェリエであった。

一六二一年、I・ブリオが版刻した、《騎士マリーノの肖像》(図1)に、制作年だと推定されるこの年が書き込まれている。

一六二二年、この年を、I・ブリオが扉絵に版刻してある『雄弁論』がある(図7)。

一六二三年、この年を、I・ブリオが記銘に入れた、ウルバヌス八世の肖像(図2)がある。

一六二六年、パリのノワイエ街rue des Noyersに居住していたことが知られている。

一六二六年、または、一六二七年に、T・ニコレと再婚。

一六三〇年—三一年には、トゥルノン街 rue de Tournon に居住（以上、PREAUD）。

ちなみにこの街路は、現在のパリのVI区にあり、オデオン座の近くで、リュクサンブール宮に面した通りである。歴史的に見ると、一五四一年に、「トゥルノン」という名称を得た。それは、フランソワ一世の顧問官であり、また、一五三〇年にサン=ジェルマン=デ=プレ大修道院長となったトゥルノン枢機卿に由来するからである（HILLAAIRET,II, p. 570）。

ところで、このサン=ジェルマン=デ=プレ界隈について、説明を加えておきたい。それは、十六世紀から十七世紀にかけては、フランドルからパリに向けて多数の版画家が移住して来た際の拠点になっていた場所だからである。シャルル九世の時代（一五六〇～七四）以来、パリのこの界隈には、フランドル出身の画家と彫刻家たちの居住地域があった。ここを中心に、パリとアントウェルペンの間に人の往来があった。フランドルの版画家は、サロモン（Bernard Salomon）などの版画家がリヨンで身につけていた木版技術が伝わったパリに来て、技術を磨いた（こうした作例は、K-K-K-O-Sにある、もう一点の一五五九年刊行『変身物語』のデジタル・アーカイヴで確認できる）。

一方で、フランスの版画愛好家は、フランドルの高度な技術を示す銅版画の肖像に夢中になっていた。人口三十五万のパリは、宗教戦争の難民たちに、仕事を与えることができたのである。代表格の版画家が、ド・ル（Thomas de Lou）であった。一五八四年には、銅版画による最初の挿絵入り図書であるテヴェ『著名人物集』が刊行される。銅版画自体は、以前から無論制作されていたが、フランドル人版画家は、モデルの写実的な再現力で圧倒していたからである（木村、二〇〇六、三五六—三五七頁）。

一六三〇年五月、版画家ラヌ（M.Lasne）と同時代の著名人物三六人の肖像集を刊行する計画を立てるが、共同作業は巧く行かず、同三五年九月一〇日、破綻する。

同年七月三一日、四人の出版業者、ギュモ（Guillemot）、デュブレ（Dubray）、ロコイェ（Rocollet）、ソマヴィル（Sommaville）と、『イソップ物語』の挿絵を版刻するための折衝を行う（以上PREAUD）。

一六三七年、オウィディウス『変身物語』の復刻版*MET*, 1637 (Paris) 刊行に際し、挿し絵も再録される（参考図版2）

一六三九年九月九日以降六年間、サン=ジェルマン=デ・プレのブシュリー街 rue des Boucheries にある家を、年間八〇〇リーヴルの価格で借りる。

一六四〇年年一月には、上記の住所に居住。

同年年一月十五日、銅版画親方組合・創設定款作成のための代表に指名された。

一六四二年三月三〇日、国王ルイ十四世から、銀貨鋳造の件で告発される（1）。しかしながら、一六〇八年以降、一六六一年まで、版画制作は継続している（PREAUD）。

一六五一年、オウィディウス『変身物語』の復刻版*MET*, 1651 (Paris) 刊行に際し、挿し絵も再録される（参考図版3）。

一六六一年、身体に麻痺が生じる。

同年、ルイ十四世から、帰化許可証を得る。
晩年は、サン・ミッシェル大通り、アンフェール街 rue d'Enfer,faubourg Saint-Michel に居住（以上、PREAUD）。
一六七〇年三月五日、死去 (2)
遺産目録の日付は、一六七〇年四月九日 (3)。

Ⅲ　イザーク・ブリオの主要な版画作品

この版画家の作品については、先に述べたように、一九五一年までに総計二三七点の作品が指摘されている。論者にはそれらを網羅的に紹介する力はなく、また本論考の趣旨もそこにはない。本論考では、先行研究で引用され、また、論者が継続している、フランス十七世紀前半における絵画と版画との相関関係という視点から、若干の主要な作品を紹介し、その傾向を分析することに留めたいと考えている。

分析は、大きく分けて、肖像、神話図像、宗教図像、世俗図像という分類で考えてみたいと思う。

①同時代人物の肖像

先に引用したジャル（JAL,I）は、このブリオを論じるにあたって、先ず、十九世紀の愛好家にはよく知られた作品として、《アンリ四世像》を挙げている。それは、画家ケネル（François Quesnel）と親しかったブリオが、彼の描いた絵画である、王の衣装を身にまとったアンリ四世の像を版刻したものだとされている。そして、そこでは、この作品だけでなく、同時代の重要人物の肖像がしばしば指摘される。ここでは、次の一点だけに絞って考えてみたい。

1　騎士マリーノの肖像（図1）

髭をたくわえ、こちらを見据えるような強い視線を見せる初老の紳士が描かれている。月桂樹の葉によるガーランドで囲まれ、斜めに構えた半身像である。椅子に座っていて、マントを右肩にかけ、右手に書物、左手に十字架のつた鎖。左手の指で十字架を持つ。颯爽とした知識人の姿である。背景には影があるが、所々に、クロス・ハッチングの技法も見せ、柔らかな線と、行き過ぎない濃淡の違いを優雅に用いている肖像表現となっている。

フランス語で書かれた記銘には、モデルが、イタリアの名誉であり、類い希な知性であることが書かれ、オマージュをなしている。

モデルであるマリーノ（一五六九―一六二五）Cavalier Marin (Marino ou Marini, Giambattista) は、イタリアの詩人。成人後、ローマで、枢機卿アルドブランディーニに仕え、ラヴェンナ、トリノに赴いた後、一六一五年、マリー・ド・メデシスから招かれてパリへ移った。そこで摂政、コンチーニに庇護され、その死後、若きルイ十三世の寵を受けた。この時代の最も特徴的な詩集は、『サンポーニャ *La Sampogna*』（一六二〇年）、『美術館 *La Galeria*』（一六二〇年）。なお、この肖像画の制作以降であるが、『アドーネ *L'Adone*』（一六二三年）刊行に際しては、ルイ十三世の多額の助成金を得た (4)。月桂冠のガーランドの意味するところと、右手に持つ書物が、今指摘した、パリ在住期の詩集を連想させる。

ここでは深くは触れないが、画家プッサンを愛し、彼が、ローマに留学するきっかけを与えたのはマリーノである（BELLORI, *Vite*, p. 410）。

2　教皇ウルバヌス八世の肖像（図2）

体の向きを四分の三ほど正面に向けた胸像を、楕円の中に描き出し

ている。髭のある険しい表情を見せ、頭に三重の段の入った冠。五人の聖人を縫い込んだ上衣をつけている。背景を濃くし、一方で、モデルの表情と衣装は明るく処理している。楕円の内部に、数種のクロス・ハッチング。その周囲は、水平線。右手上と、衣装の一部は、点で処理。三重冠（仏語、tiare）をつけているが、これは、円形の王冠を三つ重ねたもので、頂上には十字架がつけられる。教皇だけが着用できる。「三位一体」「司教権、司牧権、教導権の三権」「教会の三領土（ローマ・キリスト教国、精神世界）」などを象徴するといわれる（木戸口智恵『新・カ』一九九八年、二巻、三〇七頁）。

着衣は、カッパ（合羽、cappa）と呼ばれ、元来は、雨を防ぐ外套であったものが、典礼用の服装の一つとなったもの（土屋吉正、『新・カ』一巻、一九九六年、一一〇七頁）。

モデルはローマ教皇、在位（一六二三―四四）。フィレンツェに生まれる。本名、バルベリーニ（Maffeo Barberini）、学芸、美術に造形が深かった。フィレンツェ、ローマで学び、ピサの大学で法学博士号を取得（一五八九年）。一六〇四年一〇月に名義大司教、兼パリ駐在教皇大使。教皇着任がこの版画の記銘にある一六二三年である[5]。

この版画家が、同時代の重要人物をこのような方法で描き残したという事実は、彼が、王権と宗教界にそれなりの関係を持っていたということを暗示しているだろう。

②古代史の人物の肖像

以下3点は、イタリアの版画家、テンペスタ（Antonio Tempesta, 一五五五頃―一六三〇）の作品、「ローマ皇帝像の連作」（一五九六年）の中から、三点だけを模写し、変更を加え、その下に、フランス語による解説を付け加えたものである[6]。

3　ローマ皇帝アウグストゥス（図3）

ローマの初代皇帝が馬に跨っていて、彼の頭には、月桂冠。鼻筋の通った横顔に険しい表情がある。四分の三ほど後ろを見せる姿で、甲冑を着けている。その上部には、肩に動物の顔をあしらった飾り。左手で指揮棒を突き出し、右手は馬の轡を引いている。首に巻いているマントが風に翻る。

馬は、前足を挙げ、右手に駆け出そうとする瞬間を捉えている。後ろ足に全ての重量をかけ、今、瞬発しようとする勢いがある。馬の臀部が豊かな量感を示していて、地上から見上げる低い視点を取っている。

原画との比較でいえば、空間描写は、前景を極端に強調したもので、馬は、土手の上にいるのであろう。中景は思い切りよく省略している。遠景には建築物が並び、プランに従って画面に平行に描かれている。建物は、ミネルウァ・メディカ神殿であるとする指摘がある[7]。

ブリオのこの作品にだけ見られる記銘部分には、「最も勇敢なるものにすら嫉妬をさせた人こそ、ここに描かれた肖像の人物であり、永遠の名声を得た人物である」と説明されている。その人、アウグストゥス Augustus (Gaius Julius Caesar Octavianus) は、ローマの初代皇帝（在位前二七―後十四年）。元老院から、アウグストゥス（尊厳なるもの）の称号を得たことは知られている（*OCD*, 2003, p. 216-218）。

技法的には前作と変わらないが、同じ肖像とはいえ、物語画の中の一情景ともいえる。モデルの歴史的な勲功を念頭に置くと、その表現手法は印象的である。

4．ローマ皇帝ティベリウス（図4）

前景中央に馬上の皇帝。やはり四分の三ほど背中を見せ、前方を見ている。右手を挙げ、指揮棒をつかみ、左手は腰。兜には月桂冠。馬

は、左に進みながら振り返っている。装飾のある衣を帯びている。

中景は省略し、遠景には海、あるいは河。低い地平線で前作同様の構図を示している。空には、太陽が雲の間から顔を出し、光が大地に満ちる様子が描かれている(8)。

モデルは、ローマ皇帝ティベリウス(在位十四―三七年、Tiberius Iulius Caesar Augustus)(*OCD*, 2003, p. 1523-4)。アウグストゥスと再婚する前のリウィアが、前夫との間にもうけていた子。記銘にも書かれているように、軍事に優れ、ゲルマニア等の各地の鎮圧に功績があった。画面右上の空から光が溢れる図柄は、そうした、鎮圧した地域に平安をもたらした事実を描いたのであろう。

しかし、記銘には民衆には愛されなかったことも書かれていて、それは、自ら暗殺と陰謀に怯え、百以上の反逆罪裁判で多くの貴族の生命と財産を奪ったことを暗示している。

5. ローマ皇帝カリグラ(図5)

前景には、前二作同様、馬上の皇帝、右手に指揮棒を持ち、華やかな飾りのある兜をかぶる。皇帝が、両足を上げた馬の手綱を引いたところか。装飾のある布をはおった馬。空間処理の手法は同じである。記銘には、暴政の残酷さが書かれている(9)。

この皇帝Gaius Julius Caesar Germanicus(在位三七―四一年)は、ゲルマニクスと大アグリッピナの子。両親等が、ティベリウスの猜疑心で犠牲になる。大病後、精神を患い独裁となる。やがて、近衛兵から暗殺される。

③神話図像

6. アポロとダフネ

本作品は、すでに、その図像展開を、論者自身が書いた先行論文(木村、二〇〇八)で紹介している。ここでは、その際には詳述できなかった部分について若干の作品記述を付け加えたいと思う。

前景に、アポロとダフネ。アポロは左手に弓を持ち、ダフネを追いかけている。ダフネは、長い髪を垂らし、下半身はすでに樹に変わっている。構成上は、二人の足下の部分は、クロス・ハッチングの技法で暗く描写されている。

中景の下部には蛇行し、遠景に進んでいる道があり、細かな部分とはいえ遠近表現についてのこだわりが認められる。右下には、杖をついて歩く農夫と、杖を肩に担いで歩く農夫。地上には、横たわる家畜や草をはむ動物がいる。家屋が数軒あり、建物の壁面はプランを意識していない

画面の上部右には、キューピドが弓を射ている。遠景の山の上には塔がある。構図の全体は、ブリューゲルの作品などにしばしば見られる俯瞰構図をとり、細部のモチーフの使用方法などからも、フランドルの版画手法の影響が明白である。

ロレーヌ出身のブリオが、どのような技術的な訓練を経てきたのかは審らかではない。しかし、生涯を論じたところで指摘したように、この版画家が、パリのサン=ジェルマン=デ=プレ界隈に近い工房で制作をしていたならば、フランドル出身の銅版作家との交流があったことは間違いないであろう。

ちなみに、この版画は、オウィディウスの『変身物語』の書物の中に挿し絵として使われている。ここにその図書の扉絵を参考図版として掲載した。

参考図版1．オウィディウス『変身物語』の扉絵（一六一九年）
MET. 1619 (Paris)

建築物のファサードを連想させる形態がある。画面上段中央には、豊かな量感の表現に成功しているクロス・ハッチングで描かれた雲の中に擬人像と思われる人物。左には、鎧と兜に身を固め槍手にした、恩恵と文明をもたらす女神ミネルウァ（GALLICA）。右には、翼のあるクピドが、右手に弓、左手に炎のついた棒を持つ。

画面中段には、右に、炎を前に、四人の人物がいて二人は手を挙げる。二人は横たわっている。左には、炎の前に横たわる女性、その上には多くの鳥が舞う。中央の書誌事項のために数種を組み合わせた活字には、清潔感があり、イタリックも効果的である。

画面下段右には、柱礎に近い部分の中央には、左右に枝を伸ばした木。左の柱礎の中央に、風雨に荒れた海の中にある岩、雷、光。その下部に、原画の素描担当者だと想定されるラベル（D.Rabel,jnue）の記銘がある。

パリの出版業者である、ランジェリエからの出版。この図書の中には、一五一点のエングレーヴィングによる挿絵が認められる。たとえば、《アポロとダフネ》（図6）を含むブリオ作の三八点。その他の版画家は、マテウス（Matheus、三六点）、フォルト（Fault、九点）、フィランス（Firens、九点）、ラヌ（Lasne、九点）、不明（四六点）。しかしながら、基本的には、テンペスタが、一六〇六年にその挿絵を描いた、『変身物語』（*METAMORPHOSEIN*）を、換骨奪胎しながら版刻したものである(10)。

ルヌアール（Nicolas Renouard）による仏訳は、先ず一六一四年になされ、一六一七年の版で、挿絵が使われたとされる（AMIELLE, 1989, p.269)。

参考図版2．オウィディウス『変身物語』の扉絵（一六三七年）
MET. 1637 (Paris)

前記図書の刊行から、十八年を経て復刻された図書。出版業者は、最下部のカルトゥーシュに書き込まれているように、サン・ジャック街の、出版業者バレーヌに代わっているが、扉絵自体は同じものを使用している。サン・ジャック街は、出版の中心の地域であったことは著名である（木村、二〇〇六、論文11)。

参考図版3．オウィディウス『変身物語』の扉絵（一六五一年）
MET. 1651 (Paris)

同じように、三二年を経て、再び復刻された図書。出版業者は、最下部のカルトゥーシュに書き込まれているように、クルベに代わっているが、扉絵自体は同じものを使用している。この図書が、パリの十七世紀前半でどれ程必要とされていたかが理解できるであろう。

④宗教図像

7．ビネの著作『雄弁論』の扉絵

画面には、建築物のファサードを変形した形態が描かれ、そこに様々なモチーフを描き込んでいる。

中央には、バロック建築などでしばしば用いられた渦巻き文様の一つであるカラトゥーシュに図書のタイトルが書き込まれている。その上部には、雄弁L'ELOQVENCEという抽象的な観念を表わす擬人像が座っている。

左手の中段の円柱の前には、自然LA NATVREの擬人像。若干、引き延ばしたマニエリスム的なプロポーションを見せ、左足を前にし

たコントラポストで描かれている。右手に太陽、左手には、果実の溢れる豊饒の角。足下の柱礎には、草花が花咲いている。

右の女性は、右手にコンパス、左手に球を持つ、芸術 L'ART を表す擬人像。柱礎には、やはり、コンパスや定規など、設計を連想させるような複数のアトリビュートが認められる。

この時代の書物にはしばしば見られる扉絵の形式である。図書の内容は、この画面には認められないが、イエズス会の作家、ビネ(E.Binet)であるとされる(WEIGERT,1951)。この作家は、この時代のこの社会ではベストセラー作家とも呼ぶことができる存在であり、そうした書籍の扉絵制作にブリオが動員されていてということができる(11)。

8.『黄道十二宮』の扉絵

中央に楕円で、左右相称に近い形態があり、右上には、豊饒という観念を表わす擬人像(右手に、果実の溢れる豊饒の角、左手に、麦の穂、頭には草花)、左上には、左手に枝と右手に花束を持つ擬人像。ともに、ひねりを入れた形態である。

右下には、燃え上がる炎の前に座る、帽子をかぶった老人。左下には、座り込んだプットが、右手に杯、左手に実のついた葉を持ち、酒樽を思わせるものに座る。バッカスを連想させるプットである。

画像の周辺を、唐草の連続文様が囲み、装飾へのこだわりが認められる。クロス・ハッチングを適宜用いていて、緩やかな凹凸感ができあがっている。

作品は、十二点の連作版画(12)の扉絵である。それらは、一月から十二月にかけて行われる祭りの情景を描いたものである。フランドルの版画家、ヴィーリクスの影響が認められる。

⑤風俗図像

9.月暦画(六月)

画面前景は高い場所にあり、そこには、三人の男たちがいて、中央の一人は、羊の毛を切り取っている。右手の男は、羊を抱いている。もう一人は背中に背負い、歩き去ろうとしている。左手には、囲いの中に家畜群がいる。農村における労働の描写である。

構図は俯瞰構図をなしていて、中景右下には、農家風の建物の前に家畜たちがいる。中景中央の左右には流れる川。

画面上部には、かに。左上に太陽が輝き、後景には広々とした風景が認められ、中央の小高い山の上に、塔がある(13)。

Ⅳ 結論

本論考は、版画家Ⅰ・ブリオの生涯と若干の作品を紹介した小論である。フランドル十七世紀の画家研究に比べれば、版画家についての纏まった研究は、ごくわずかなものしか存在しない。そうした意味で、網羅的なカタログ・レゾネを作成できる立場にはいない論者の手になる、小さな試みにしか過ぎない。

しかしながら、わずかとはいえ、図版と目録データを提示することができた。デジタル・アーカイヴを併用してもらえれば、この版画家の業績を考える手がかりと、版画を中心とした、一六一〇—二〇年代のパリの視覚文化の一様相の分析にはなろうかと思われる。具体的には、オウィディウス『変身物語』、そして、ビネ『雄弁論』のイエズス会の文化環境への視覚的な影響の実情についての調査が今後の課題となるであろう。

ブリオ関係参考文献

☆☆省略記号①

AMIELLE :AMIELLE (G.), *Recherches sur les traductions françaises des Métamorphoses d'Ovide illustrées et publiées en France à la fin du XVe siècle et au XVIe siècle,* 1989, J. Touzot, Coll. Caesarodunum: Textes et images de l'Antiquité, I.

BASAN :BASAN (P.F.), *Dictionnaire des graveurs anciens et modernes,* 1767, Paris, De Lormel, etc., 2 vol. :IDC mf.

BELLIER DE LA CHAVIGNERIE et AUVRAY:BELLIER DE LA CHAVIGNERIE (E.) et AUVRAY (L.), *Dictionnaire général des artistes de l'école française,* 1882, Renouard,3 vol.. ; 復刻版, Garalnd, 1979, 5 vol.

BELLORI, VITE:BELLORI (G.P.), *LE VITE DE' PITTORI, SCVLTORI ET ARCHITETTI MODERNI,* 1672, ROMA, Mascardi; 復刻版, 1980, Broude International.
BELLORI, *VITE* (BOREA):BELLORI(G.P.), *Le vite de'pittori,scultori e architetti moderni,* 1976, G. Einaudi, a cura di E. Borea.

COURBON, *Bibliographie* : COURBON(F.) et ROUX(M.), *La gravure française, essai de bibliographie,* 1928, M. Le Garrec, 3 vol.

HEINECKEN :HEINECKEN(C.H.von), *Dictionnaire des artistes, dont nous avons des estampes,* 1778-90 Leppzig, Gottlob, I.Breitkopf, 4 vol.

HILLAIRET:HILLAIRET(J.), *Dictionnaire historique des rues de Paris,* Minuit, 1985, 2 vols.

JAL :JAL(A.), *Dictionnaire critique de biographie et d'histoire,* 1867, Paris, H.Plon ; 参照は、復刻版, Slatkine, 1970, 2 vol.

木村　二〇〇六：拙著『ニコラ・プッサンとイエズス会図像の研究』中央公論美術出版、二〇〇六年。

木村　二〇〇八：拙論、「ルネサンスからバロックにかけて描かれた《アポロとダフネ》の図像展開について……ルーベンスとプッサンの周辺」『日本大学芸術学部紀要』二〇〇八年、四八号、五五―七二頁

LEVILLAIN :LEVILLAIN(P.)(sous la direction de), *Dictionnaire historique de la papaute,* 1997, Fayard.

MARIETTE :CHENNEVIERES (Ph.de) et MONTAIGLON (A.de), *Abecedario de P.J.Mariette et autres notes inédits de cet amateur sur les arts et les artistes,* (Ca.1740-1770) 1851-60, J.B.Dumoulin（脚注のある校訂版）（復刻版 F.de Nobele, 1966, 6vol.)

MIREUR :MIREUR(H.), *Dictionnaire des ventes d'art,* Maison d'éditions d'oeuvres artistiques, 1901-12, Maison

d'éditions d'oeuvres artistiques, 7 vol. ;復刻版 artprice.com, 2001. 7 vol.

NAGLER: NAGLER (G.K.), *Neues allgemeines Kunstler-Lexikon,* (1835-52) 1904, Linz, E.Mareis, 25 vol.

OCD : 2003 HORNBLOWER(S.) and SPAWFORTH(A.) (ed. by), *The Oxford Classical Dictionary,* 2003, Oxford University Press, 3rd ed., rev.

PREAUD, *Dictionnaire* : PREAUD(M.) et GRIVEL(M.), etc., *Dictionnaire des éditeurs d'estampes à Paris sous l'Ancien Régime,* Cercle de la Librairie, 1987.

ROBERT-DUMESNIL :ROBERT-DUMESNIL(A.P.F.), *Le peintre-graveur français,* 1868-71, Paris, Ve Bouchard-Huzard, etc., Leipzig, R.Weigel, 11 vols. ;復刻版 De Nobele, 1967, 6 vol.

『新・カ』:高柳俊一（代表）『新カトリック大事典』一九九八年、同編集委員会編、研究社、

STRUTT: STRUTT(J.), *A Biographical Dictionary of All the Engravers,* 1785, London, Davis, I;復刻版, Minkoff, 1972.

なお、これ以外の省略記号で、当該論文の中の参考文献、並びに註の中に、省略記号で記述されたものは、次の二件の論文の該当部分に詳しい書誌事項がある。

二〇〇七―拙論「版画家ユベール=フランソワ・グラヴロの挿絵についてのノート」『日本大学芸術学部紀要』二〇〇七年、第四六号、五七―五八頁

木村三郎　2008、六二―六三頁（①）

☆☆省略記号②西洋の十七世紀において翻訳された、オウィディウス『変身物語』の翻訳版で、本論考で言及した図書

MET. 1637 (Paris) : *LES//METAMORPHOSES//D'OVIDE/,* Traduites en Prose Francoise[...]A PARIS,//Chez Pierre Ballaine,//1637

☆☆アリオについての参考文献

凡例

1　*がある文献は、オウィディウス『変身物語』（一六一九、一六五一）について言及がある文献

2　ゴシックによる刊行年と著者名の表記があるものは、重要度が高い文献

A. 基本的な辞典の中に、若干の記述が認められる時代の研究

Ca. 1740-1770 MARIETTE ;1859-60, VI, p. 307-308.作品に関しては、高い評価をしていない。

1767 BASAN,I, p. 88.

1785 STRUTT, p.145.
1789 HEINECKEN,III, p. 356.

B. 作品リストが作成された時代の研究

(1835-52) 1904, NAGLER,I, p.185※ (1637).

1854 LE BLANC, *Manuel* : I,p.521-522, ※no.29-64. 総合的な意味で、作品分析に基づいた批評的な判断を加えて書かれた最初の分析。

(1867) 1872 JAL,I, p. 283-285. ブリオの生涯について最も詳しい記述がある。

1868 ROBERT-DUMESNIL(A.P.F.), X,p. 198-244, ※p. 217-220 (no.77-113). 作品目録が記述されている。

1871 ROBERT-DUMESNIL(A.P.F.), *Le peintre-graveur français,* XI, additions au tome X, p.25-26. 前著への補遺。

1882 BELLIER DE LA CHAVIGNERIE et AUVRAY,I, p.357. ※ p. 357.

1883 GUIFFREY(J.), 《Scellés et inventaires d'artistes》, *Nouvelles archives de l'art francais,* IV, p. 6-7.

1911 MIREUR,I, p.491-492.

1911 THIEME und BECKER ,V, ※p. 27.

1918 BRYAN-WILLIAMSON, I,p.196-197 (※).

1928 COURBON, *Bibliographie,* II, p. 71-72.

C. 学術的な水準の高い目録が作成された時代以降の研究

1951 WEIGERT(R.A.), *IFF:Graveurs du XVIIe siècle,* II, p.143-162. ※p. 147-148 (no. 10-45). 最も詳しい目録。図版なし。

1986 GRIVEL , p. 286.

1987 PREAUD, p.70

1996 PREAUD(M.), *AKL* ,XIV, p.257.

2003 MEYER(V.), 《Ovide》, in cat. BLOIS: *Expo. Marie de Médicis,* Château de Blois, Somogy, etc., p. 214. 文学的な内容についての分析。

二〇〇六 **栗田秀法**「オウィディウスの挿絵とプッサン……《エコーとナルキッソス》をめぐって」『名古屋芸術大学研究紀要』二七巻、※三八―五四頁.

二〇〇六 **新畑泰秀**「オウィディウスの『変身物語』……16―17世紀の挿し絵本とフランス絵画」『17世紀フランスにおけるオウディウスの挿絵と絵画の関係についての総合的研究』平成15年度～17年度 科学研究費補助金「基盤研究(B) 一般(I)」研究成果報告書、研究代表者 木村三郎 ※三九―四四頁.
http://ovidmeta.jp/search/p/index.php にも掲載

二〇〇六　鯨井秀伸 KUJIRAI (H.),《A Subject Study of Ovid's Illustrated Metamorphoses:Imagery of Orpheus》『17世紀フランスにおけるオウディウスの挿絵と絵画の関係についての総合的研究』同前、※六三―六八、八一―一〇八頁。図版掲載。作品紹介として最も詳しい。

二〇〇八　木村三郎、五九頁、図11a,b.

註

(1) PEAUD,硬貨鋳造に関しては、http://images.google.co.jp/で、{LOUIS XIV LE GRAND ou LE ROI SOLEIL} を検索すると、関連作品が提示されている。

(2) 1883 GUIFFREY.この記録によると、午前一時に、サン・ジェルマン大通りのヴォジラール街、トレモワル邸で死去、とされる。Arch.nat.Y.10954 (未確認)。娘マリーの名前も記されていて、葬儀に際しての報告がある。

(3) PREAUD.なお、娘マリーについては、やはり十九世紀に著名なモノグラム事典を書いたブリュイヨが触れている。それによれば、鳥を描くことで知られた版画家であったとされる。モノグラムは、MBE (1833 BRUILLOT,II, p.259, no. 1966)。

(4)佐藤三夫『集英社世界文学事典』二〇〇二年、一六一六―一六一七頁。詳しくは、GUGLIELMINETTI(M.),《Marino(Giambattista)》, *Dizionario critico della letteratura italiana,* 1974, II, p. 531-542.

(5) Archevêque inpatribus de Nayareth .RENOUX(C.), in LEVILLAIN, p.1683-1687. 磯見辰典、『新・カ』、一九九六年、一巻、七二三頁。

(6) テンペスタに関する文献としては、

1983 BUFFA(S.)(ed.by), *Antonio Tempesta, Italian Masters of the Sixteenth Century,* 1983, Abaris Books, Il. Bartsch, 36.

1984 BUFFA(S.)(ed.by), *Antonio Tempesta, Italian Masters of the Sixteenth Century,* 1984, Abaris Books, Il. Bartsch, 35.

2007 LEUSCHNER(E.), *Antonio Tempesta,* Abaris Books,Il. Bartsch, no. 35. commentary.

テンペスタの作品「十二人のローマ皇帝連作」(一五九六年) (XII CAESARE IN EQVESTRI//...Antonius Tempesta[...] ROMAE[...] MDXCDI[...]). BUFFA, 1984, no. 596-607.

(7) BUFFA, 1984, のなかの、図596 (146) には、テンペスタの記銘が入った作品が掲載されている。これを原画とすると、馬上の人物は左右逆であり、遠景の風景はなく、台座の上の彫像として描かれている。

一方で、この原画からは、ブリオだけでなく、多くの模作が指摘されている。LEUSCHNER, 2007, 159-169 (no. 534)。中でも、メリアン (M.Merian) の模作 (534. C2S1) は、このブリオの作例と同じ遠景処理を行っている。どちらが先行した作例かについては今後の検討が必要であろう。

さらに、風景を背景に持つ騎馬像として著名なヴェラスケス作《オリヴァレス公伯爵騎馬像》(プラド美術館蔵、一六三五年) の着想源になっていることが指摘されている (LEUSCHNER)。

(8) テンペスタの版画は、前作同様、背景はなく、また台座の上の騎馬像である。記銘も、TIBERIVS CAES. (BUFFA, 1984, no. 598-146).

(9) テンペスタの原画は、やはり風景がない (BUFFA,1984, no. 599-146)。

(10) BUFFA,1983;MEYER,2003.なお、パリの、アルセナル図書館蔵のこの図書の装丁と、序文のヴィネットにも、出版業者ルヌアールの強いデザイン感覚が認められる。中には、《オウィディウスの肖像》(17×10.6 cm) の挿し絵がある。版画家名は、Jaspar Isac.横顔で、鼻が高く、つきだした顎を見せ、頭に月桂樹の葉。四種以上のクロス・ハッチングを使い、精緻な表現に成功している。一六一四年刊行の『変身物語』の挿し絵 (Paris,M.Guille 刊行、Gultier 版刻、フランス国立図書館蔵) や、装丁の質の低さと比べて見ても、この図書にも触れたであろう、パリ滞在時期の若きプッサンなどには、大きな感動を与えたものと思われる。

(11) この書物に関しては、一六二一年刊行の同名の図書との関係が紛らわしい。木村三郎、二〇〇六、三〇三頁、註28を参照。

(12) Les Festes du mois de Janvier et des onze autres mois de l'année, フランス国立図書館蔵、R.D.41-52. 1951 WEIGERT, II, 1790190.

(13) T・ド・ルが刊行した連作版画「十二ヶ月」の中の一点である。フランス国立図書館版画室には、もう一点、《九月》がある。P・ブリューゲル（父）の著名な、月暦画連作（ウィーン美術史美術館、他）が連想されるが、その関連性は今後の課題としたい。

この論文は、平成十九年九月二八日、日仏会館（東京）で行われた、日仏美術学会シンポジウム「デジタル時代の図像学を考える」において行った基調報告に一部重複している。また、平成二〇年度における、科学研究費・基盤研究（C）、並びに、日本大学芸術学部研究費「アート・アーカイヴ構築に向けての基礎研究」（共同）、「日欧の17世紀における、挿絵と絵画の関係についてのデジタル・アーカイブ基礎研究」（個人）にもとづく研究である。

一方で、この研究は、日本大学総合学術情報センター、デジタル・ミュージアム研究プロジェクトにおいて、同リーダーを勤めた研究成果の一つである。同前局長新家勇氏から、多大なご支援を賜ったことをここに、深謝したい。また、同センターの柳堀正紀、林久美子、芸術学部図書館、荒井隆志、寺村美行、山崎恭子、森田明各氏のご尽力をいただいた。

Ⅰ．同時代人物の肖像

1．騎士マリーノの肖像

フランス国立図書館版画室蔵：E 070325/R.D. 193/Ed 117 fol.

寸法：21.3×14.5 ㎝　　技法：エングレーヴィング

記銘：上部　　LE CHEVALIER MARIN

下部左　I.Briot fecit,1621

右　de l'Espine Breton

下部中央　Voicy d'un grand Auteur vne excellente Image
L'honneur de l'Italie et des rares Esprits.
Sa plume et son scauoir n'eurent jamais de prix
Et tous les pius scauents luy doiuent rendre hommage
On le peut apeller des Muses le Soleil
Genie sans egal et Poote sans pareil.

文献：1854　LE BLANC,*Manuel* ,I,p.522, no. 70
1868　ROBERT-DUMESNIL,X, p. 243, no. 189
1951　WEIGERT, p.149, no. 54

2．ウルバヌス八世の肖像

フランス国立図書館版画室蔵：E 070331/R.D.193/Ed 117 fol.

寸法：19.4×12.8 cm　　技法：エングレーヴィング

記銘：下部中央　1624
VRBANVS VIII.PAPA//FLORENTINVS OPT.MAX//Pontifex Roman//M.D.CXXIII
同左　J.Briot.fecit
同右　Nicolas de Mathoniere//excudit.

文献：1854　LE BLANC,*Manuel,* I,p.522,no. 73
1868　ROBERT-DUMESNIL,X, p.243, no.193
1951　WEIGERT, p.150, no.68

II. 古代史の人物像

3. ローマ皇帝アウグストゥス

フランス国立図書館版画室蔵：E 070295/R.D.122-21/Ed 117 fol.

寸法：35 × 20 ㎝　技法：エングレーヴィング

記銘：下部　1 DIVI IVLI CAES AVG
Anto Tempest Inuentor, Isaac Briot sculpcit. Jacques Honeruogt, excu.
C'est le portraict d'vn Prince qui fut tel,
Qu'aux plus vaillans il donna de l'enuie :
L'ambition luy fit perdre la vie,
Et la valeur le rendit immortel.

文献：1854　LE BLANC, *Manuel,* I,p. 522, no.75-85
1868　ROBERT-DUMESNIL, X, p.222, no. 122
1951　WEIGERT, p. 160, no. 197

関連作品（A.Tempesta）
1984　BUFFA,596（146）；2007　LEUSCHNER, 534（C2, S1, New York, MMA）

C'eſt le portraict d'vn Prince qui fut tel,
Qu'aux plus vaillans il donna de l'enuie:
L'ambition luy fit perdre la vie,
Et la valeur le rendit immortel. 1.

4．ローマ皇帝ティベリウス

フランス国立図書館版画室蔵：E 070296/R.D. 123/Ed 117 fol.

技法：エングレーヴィング

記銘：下部左　I.Briot fe.Honeruogt ex.

左から　3 TIBERIUS CAESAR

Tibere expert aux affaires Publiques,
Se fit priser, mais on ne l'ayma point,
Et ce deffaut nâquit de n'auoir joint
L'art de bien viure, aux secrets Politiques.

文献：1854　LE BLANC,*Manuel* ,I,p. 522, no. 75-85

1868　ROBERT-DUMESNIL,X, p.222, no.123

1951　WEIGERT, p.160, no. 198

関連作品（A.Tempesta）

1984　BUFFA,598（146）

5．ローマ皇帝カリグラ

フランス国立図書館版画室蔵：E 070297/R.D.124/Ed 117 fol.

技法：エングレーヴィング

記銘：左下　Briot fecit.
Honeruogt excu.
中央　4　C.CAES TI.F

De ce Tiran l'insolence punie,
Par le succés d'vn blasmable attentat :
Apprend â ceux qui troublent vn Estat,
Quels rejettons pousse la Tyrannie.

文献：1854　LE BLANC, *Manuel*, I, p. 522, no.75-85
1868　ROBERT-DUMESNIL, X, p.222, no.124
1951　WEIGERT, p.160, no.199

関連作品（A.Tempesta）
1984　BUFFA, 599（146）

De ce Tiran l'infolence punie,
Par le fuccés d'vn blafmable attentat:
Apprend à ceux qui troublent vn Eftat, 4.
Quels rejettons pouffe la Tyrannie.

III. 神話図像

6. アポロとダフネ

フランス国立図書館版画室蔵：E 070275/R.D.77/Ed 117 fol.
ロンドン、ワールブルグ研究所蔵（1619 図書）
日本大学芸術学部図書館蔵（1651 図書）
http://www.ovidmeta.jp
寸法：11.3 × 13.8 cm　技法：エングレーヴィング
記銘：左下　I.Briot fecit.
　　中央下　Apollo Daphné
文献：1854　LE BLANC,*Manuel*,I,p. 522, no. 29
　　1868　ROBERT-DUMESNIL,X, p.217, no. 77
　　1951　WEIGERT, II,p.147, no.10
　　2008　木村, p. 59, 図11a

Ⅳ．宗教図像

7．ビネの著作『雄弁論』の扉絵

フランス国立図書館版画室蔵：E 070253/R.D. 34. 2/Ed 117 fol.

技法：エングレーヴィング

書誌：1622

ESSAY//DES MERVEILLES//DE NATVRE// ET DES PLVS NOBLES//ARTIFICES//PIECE TRES NECESSAIRE//A TOVS CEVX QVI FONT//PROFESSION//D'ELOQVENCE//Par Rene Francois Predicateur//du Roy// A ROVEN//Chez Romain de//Beauuais et Iean Osmont//M.DC.XXII

記銘：上部の女性像の下　L'ELOQVENCE
左の女性像の下　LA NATVRE
右の女性像の下　L'ART

左下　Auec Privilege du Roy
右下　I.Briot fecit

文献：1854　LE BLANC, *Manuel*, I, p. 521, no. 27
1868　ROBERT-DUMESNIL, X, p.210, no. 34
1951　WEIGERT, II, p. 150, no.64

8．『黄道十二宮』の扉絵

フランス国立図書館版画室蔵：E 070258/R.D.40/Ed 117 fol.

寸法：12.5×18.4 cm　　技法：エングレーヴィング

書誌：

ラテン語

SACER ZODIACVS//In Meuses duodecim diuisus festa//Mobilia atque Immobilia completens//quce Ecclesia Romana celebrat//Notatis diebus oculis subiiciens//Opus publico et non//Minus gratum quam vtile.

フランス語

LE SACRE ZODIAQVE//Diuisé en douze Moÿs Contenans les//Festes Mobiles et Immorbiles que solemnise//Leglise Romaine par la Remarque//Des Iours.//Oeuure non moins vtile//Qiuagreable au public.//A Paris,//Chez Nicolas//de Mathoniere.

記銘：右下　I.briot,fe.

文献：1868　ROBERT-DUMESNIL, X, p. 212, no. 40 (-52)

1951　WEIGERT, II, p. 150, no. 178

V．世俗図像

9．月暦画（六月）

フランス国立図書館版画室蔵：E 070271/Ed 117 fol.
寸法：12.4 × 19.5 cm　　技法：エングレーヴィング
記銘：下部中央　IVNIVS
　　下部右　　I briot, fecit
文献：1951 WEIGERT, II, p.159, no.171

参考図版

1．オウィディウス『変身物語』の扉絵（1619年）

ロンドン・ワールグルグ研究所蔵
パリ、フランス国立図書館蔵 [Cote : Res g Yc 430/Microfilm R 78407]
http://gallica.bnf.fr./ark:/12148/btv1b22000826/f1.item
パリ、アルスナル図書館蔵

技法：エングレーヴィング

書誌：

中央部
Les//METAMORPHOSES//D'OVIDE//Traduittes en Prose Francoise et de// nouveau soigneusement reveues,//corrigees en infinis endroits,et enri-//chies de figures a chacune Fable.//AVEC XV. DISCOVRS// Contenans l'Explication Morale//et Historique.//DE PLUS//outre le Jugement de Paris, aug-//mentees de la METAMORPHOSE//DES ABEILLES, traduite de VIRGILE,//de quelques EPISTRES D'OVIDE, et//autres divers traitez.//1619

下部のカルトゥッシュの部分
Pour l'Autheur,//A PARIS//chez la veufue LANGELIER//au premier pilier de la grande//Salle du Palais//Avec Privilege du Roy//

記銘：上部・左　UMBRAS VERO LVMINE PELLIT
同・中央　DANT VERO HAEC VVBIL FRVCTVS
同・右　FACES ACCENDIT IN VMBRIS

文献：1854　LE BLANC, *Manuel*, I,p. 522, no. 29-64
1868　ROBERT-DUMESNIL, X, p. 217, no.77 (-113)
1951　WEIGERT, II, p. 147 (-148), no.10-45

2．オウィディウス『変身物語』扉絵（1637年）

ロンドン・ワールブルグ研究所蔵
技法：エングレーヴィング
書誌と記銘：
中央部分は前書に同じ。
1637
下部のカルトゥッシュの部分
A PARIS,//Chez PIERRE BALLAINE,//ruë S.Iaques à la bonne foy,//deuant St Yue

3．オウィディウス『変身物語』扉絵（1651年）

日本大学芸術学部図書館所蔵

http://www.ovidmeta.jp

寸法：20.8×33.4 cm　　技法：エングレーヴィング

書誌と記銘：

中央部分は参考図版１に同じ。

1651

下部のカルトゥッシュの部分

A PARIS,//Chez AVGVSTIN COVRBÉ,//Imprimeur et Libraire ordinaire de//Monseigneur le Duc D'orleans dans //la petite Sale du Palais &a la Palme.

文献：

2006　木村三郎（研究代表者）『17世紀フランスにおけるオウディウスの挿絵と絵画の関係についての総合的研究』平成15年度～17年度　科学研究費補助金、基盤研究（B）一般（Ⅰ）、研究成果報告書